

# 消費生活と市場経済

## 1 単元のねらい

身近な消費生活を中心として、市場経済の仕組みや基本的な考え方を理解するとともに、経済活動が我々の社会生活にあらゆる面で密接にかかわって、人間の生活の維持や向上、生活のための手段となっていることに気づき、今日の経済活動に関する諸課題について自ら考えることができる。

## 2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	市場経済の基本的な仕組みや考え方について理解し、経済活動が社会生活と密接なかわりを持ち、人間の生活の維持・向上にとって欠かせないものであるといった経済活動の意義を、身近な消費生活を通して理解している。	消費者主権や消費者問題などについて関心をもち、経済活動の社会生活にあたる影響と課題について、消費者の権利や、行政・企業の対応や責任などの視点から、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	身近で具体的な事例を通して、現実の経済活動に対する関心が高まっている。 消費者個人と社会とのかわりを客観的にとらえ直し、その関係性についての意欲的に追究している。

●学習改善につなげる評価 ○評定に用いる評価

	1	2	3	4	5
知識・技能			○	●	○
思考・判断・表現		●○			
主体的に学習に取り組む態度	●				

3 単元構造図（全5時間） ☆獲得する認識

消費生活と市場経済	<p><b>単元学習前の生徒の意識</b>          経済と聞くと、「商業」「お金」「会社」「景気がよい、悪い」「黒字・赤字」「株」とか、歴史で学んだ「恐慌」「バブル経済」といった言葉も思い浮かぶ。「儲ける」というイメージもある。なんとなく経済の学習は難しく複雑な感じがする。私たちの生活とどう関わっているのだろうか。</p>
-----------	---

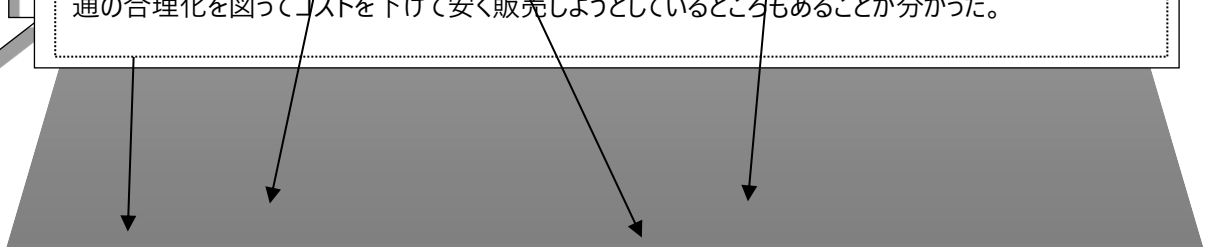
第1時	<p>コンビニエンスストアの経営者になってみよう。</p> <p>コンビニエンスストアの経営者の立場になって考えてみて、売り上げを伸ばすためにはまずお客さんの立場に立ってみる必要があることが分かった。経済活動は消費者と経営者（企業）、そして行政の活動によって成り立っている。いろいろな立場から、経済について考えてみたい。</p>
-----	--

経済活動において、消費者と企業・行政にはどのような関係があるのか。	第2時	<p>私たちの消費生活【○●思考・判断・表現】</p> <p>私たちの消費生活は、経済とどのように関わっているのだろうか。</p> <p>☆財 ☆サービス ☆経済 ☆選択 ☆家計 ☆所得 ☆消費支出 ☆貯蓄</p> <p>私たちの家庭というのは、収入を得て、それをさまざまなものに使っているのだな。そして、それをうまく分配することが、豊かな生活を実現させることにつながる。家計のバランスを考えた、計画性のある消費生活が必要である。</p>
-----------------------------------	-----	---

経済活動において、消費者と企業・行政にはどのような関係があるのか。	第3時	<p>契約と消費生活【○知識・技能】</p> <p>契約とは何か、契約をめぐる問題には、どのようなものがあるのか。</p> <p>☆消費者主権 ☆契約 ☆契約自由の原則 ☆消費者問題</p> <p>私たちの消費生活は、契約で成り立っていて、私たちには契約自由の原則がある。しかし、契約の際に十分な知識や情報が得られないために、消費者問題が起こることがある。消費者主権のために、消費者の権利を守っていくことが必要だと思った。</p>
-----------------------------------	-----	---

経済活動において、消費者と企業・行政にはどのような関係があるのか。	第4時	<p>消費者の権利を守るために【●知識・技能】</p> <p>消費者はどのような権利が保障され、私たちはどのような責任を負わなければならないのだろうか。</p> <p>☆消費者の権利 ☆クーリング・オフ ☆製造物責任法(PL法) ☆消費者契約法 ☆消費者基本法 ☆自立した消費者</p> <p>企業には PL 法によって消費者の安全を確保する義務がある。そのために企業が努力している。私たちの消費生活は法や企業の努力によって守られている。私たちも消費者として、よく考えて生活する必要がある。</p>
-----------------------------------	-----	---

経済活動において、消費者と企業・行政にはどのような関係があるのか。	第5時	<p>消費生活を支える流通【○知識・技能】</p> <p>同じ商品なのに、場所によって価格が違うのはなぜだろう。</p> <p>☆流通 ☆商業 ☆流通の合理化</p> <p>同じ商品であっても、流通経路によって価格が変わってくる。流通があるから身近な小売店やスーパーに様々な商品が届き、私たちは欲しい物を簡単に手に入れることができる。企業によっては、流通の合理化を図ってコストを下げ安く販売しようとしているところもあることが分かった。</p>
-----------------------------------	-----	---



### 単元学習後の生徒の意識

生産者は消費者の立場に立ち、消費者のニーズに応じて経営や生産を行って利潤を得ていることが分かった。そのような生産者の理念によってよりよい製品がより安く手に入れることができ、豊かな生活を送ることができる。私たち消費者の権利はさまざまな形で守られているが、自分たちの生活をさらに向上させるために、消費者が経済活動の中心であることを自覚して、自立した賢い消費者にならなければならない。

### 第 2 時 H 社の企業戦略

H 社（綿棒）の商品価格が安いばかりのもので

#### ●社会的責任

H 社の綿棒のシェアが日本一を保ち続けているの

は、種類・価格・品質を努力しているからこそ消費

者からの信頼がえられているからだと分かった。しか

時	ねらい	学習活動	評価規準	資料 指導・援助
1 コンビニエンスストアの経営者になってみよう	どこにコンビニエンスストアを出店するかを考える活動を通して、経済活動は消費者と企業、行政の活動によって成り立っていることに気づき、今後の経済の学習に関心・意欲をもつことができる。	1 コンビニエンスストアを経営するためにはどんな条件が必要か考える。 ・安定した売り上げが必要。 ・店舗だけでなく、駐車場などの土地。 ・たくさんの人が行き来する所がいい。	コンビニエンスストアといった身近な事例を題材にして生産者や消費者という視点をつかみ、これからの学習への課題追究意欲をもてる。 (主体的に取り組む態度)	P 128 ◇地図 (町の様子) ◇資料 1～3 (各市の情報) ・多面的・多角的に考えるよう助言する。 (立場...出店側、消費者側、近くの店舗側...) (場面...どんなときにどんな物が必要か) ・プラス面とマイナス面の両方を考え、それらを踏まえた上で、結論を導くように助言する。
		どこにコンビニエンスストアを出店するか考えよ		
		2 資料を活用しながら、A～C市のどこに出店するかを考える。 ・A市は補助金が出るし、初期費用が他よりも安いから、出店しやすいと思う。 ・B市は交通の便がよいのが強みだ。(交通量の多い道路沿い、駐車場がある) ・C市は駅やテーマパークがあることで、人が多く、たくさん来てくれると思う。		
		3 自分が出店を考えている場所での、「主力商品」を考える。		
		4 プラス面、マイナス面を踏まえ、自分の結論を導き出す。		
		5 単元を貫く課題を設定する。		
		経済活動において、消費者と企業、行政にはどのような関係があるのか		
		コンビニエンスストアを出店するという立場で考えてみて、売り上げを伸ばすためにはまず消費		

		<p>者の立場で考えることが必要であることが分かった。それだけでなく、周りの環境や、補助金などを含めた資金面、人々の生活パターンなど、総合的に考えることが大切だと思った。このことから、経済活動は消費者と企業、そして行政の活動によって成り立っている。いろいろな立場から、経済について考えてみたい。</p>		
2	<p>消費生活について調べる活動を通して、所得と消費の関係を、家計を通して考えることができる。</p> <p>☆財 ☆サービス ☆経済 ☆選択 ☆家計 ☆所得 ☆消費支出 ☆貯蓄</p>	<p>1 P 130①の 4 枚の写真を比べ、私たちは</p>	<p>自分の家の家計</p>	<p>P130</p>
		<p>私たちの消費生活は、経済とどのように関わ</p>	<p>専や将来の生活設計のシミュレーションを使って、よりよい生活に対して考えている。</p> <p>(思・判・表)</p>	<p>◇①4枚の写真 ◇②消費者と生産者の関係 ◇③さまざまな収入 P131 ◇④34歳以下の単身世帯の1か月間の実収入の振り分け ◇⑤希少性とは</p>
		<p>2 収入と支出について分類する。</p> <p>「収入」...給与収入，事業収入，財産収入</p> <p>「支出」...消費支出（「財」と「サービス」 非消費支出...税金，社会保険料</p> <p>「貯蓄」...収入から消費支出と非消費支出を引いた残り</p> <p>3 将来のお金の使い道を考えてみる。</p> <p>(教科書「お金の使い道を考えよう」)</p> <p>・限られた収入の中で必要なものを選択。</p> <p>4 よりよい暮らしをするためには、家計をどうしたらよいか考える。</p> <p>・収入と支出のバランスを考えること。</p> <p>・必要な商品を正しく選択すること。</p>		
		<p>私たちの消費生活では、収入を得て、それをさまざまなものに使っている。そして、必要な商品を選択しながら、収入と支出のバランスを考えていくことが、よりよい生活を実現させることにつながる。家計のバランスを考えた、計画性のある消費生活が必要であることがわかった。</p>		
3	契約について	1 どのような場合が契約にあたるかを考える。	契約自由の原則	P132

<p>4 消費者の権利を守るために</p>	<p>消費者の権利を調べる活動を通して法律や、商品に示されて契約などが何を調べることで、わたしたちの消費生活は法や企業の努力によって守られていることを理解するとともに、それに頼るばかりでなく、自分自身が自立した消費者になることが大切であることを理解することができ、権利の保障が大切。</p> <p>☆消費生活センター ☆クーリング・オフ ☆製造物責任法(PL法) ☆消費者契約法 ☆消費者基本法 ☆自立した消費者 ☆契約 ☆契約自由の原則 ☆消費者問題</p>	<p>1 契約とは何か。契約をめぐる問題には、どの消費者はどのような権利が保障され、私たちがどのような責任を負うべきか。</p> <p>2 消費者を守る法律にはどんなものがあるのか調べる。 2. 1968年の消費者保護基本法をはじめとして、これまでに様々な法律が制定された。 ・2009年には国の機関として消費者庁が設置された。 ・地方公共団体にも消費者センターが設置され、困ったときに相談にのってくれるシステムが構築されている。 ・製造物責任法では、商品により消費者が不利益を被った場合に、企業への責任を問えることとなる。 ・クーリング・オフ制度では、無条件で契約を解除できるのは基本的に自由であり、これを必要とするのは何故と考える。 ・自分で知識や情報を集め、的確な判断力を養い、その判断に基づいて行動する必要がある。</p> <p>3 「自立した消費者」になるために、私たちに必要なのは何かと考える。 ・自分で知識や情報を集め、的確な判断力を養い、その判断に基づいて行動する必要がある。消費者問題の事例から、正しく契約を結ぶには何が大切かを考える。</p> <p>・慎重に契約内容を検討すべき。 ・広告や食品表示など、複数の情報から、消費者の正しい判断が必要である。</p>	<p>わたしたちの消費生活は製造物責任法などによって守られていると、企業がこの方を遵守する義務があることを理解するとともに、私たちも自立した消費者となる必要があることを理解している。(知・技)</p> <p>(知・技)</p>	<p>R13④日常生活のさまざまな場面と異なる消費生活 ◇①販売場面と異なる消費生活 ◇相談先は ◇消費者問題の事例 ◇②消費者の権利 ◇③消費者問題関 ・具体的事例か ◇④製造物責任法 利益を裁判の例 とを防ぐにはどうしたらよいかを考え ・具体的な事例から、消費者が不利益をこうむることを防ぐにはどうしたらよいかを考える。</p>
		<p>企業にはPL法によって消費者の安全を確保する義務がある。そのため企業が努力している。私たちの消費生活は法や企業の努力によって守られている。わたしたちも消費者として、自分で知識や情報を集め、的確な判断力を養い、その判断に基づいて行動する必要がある。私たちの消費生活は、契約で成り立っていて、私たちに契約自由の原則がある。しかし、契約の際に十分な知識や情報が得られないために、消費者問題が起こることがある。消費者主権のために、消費者の権利を守っていくことが必要だと思った。</p>		

<p>5 流通のしくみ</p>	<p>商品が消費者に届くまでには卸売市場を通るため価格が変わってくることに気付き、卸売業者は消費者に代わって商品を各地から収集したり輸送したりする役割を担っていることを資料から読み取ることができる。</p> <p>☆流通 ☆商業 ☆流通の合理化</p>	<p>1 身近にある商品の価格を比較する。 ・場所や店によって価格が違う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>同じ商品なのに、場所によって価格が違う</p> </div> <p>2 値段の違いがある理由を考える。 ・流通費用がかかるほど、値段が上がる。</p> <p>3 流通経路と価格について確認する。 ・生産者→卸売市場→小売店→消費者 生産価格→卸売価格→小売価格 ・卸売りや小売りが無い方が、商品が安く買えるんだ。 ・消費者が商品を全て直接生産者から購入することは難しい。</p> <p>4 流通の合理化を図るメリットについて、消費者の立場、企業の立場の両面から考える。</p>	<p>商品の流通経路によって価格が変わること、卸売業者の役割によって、私たちは様々な商品を簡単に手に入れることができることを、資料から読み取り理解している。 (知・技)</p>	<p>P138 ◇①②写真 ◇③野菜が消費者に届くまでの流通の働き</p> <p>・卸売や小売がないと消費者はどうやって商品を手に入れるのか、考えさせる。</p> <p>◇⑧流通の合理化</p>
		<p>同じ商品であっても、流通経路によって価格が変わってくるのが分かった。流通があるから身近な小売店やスーパーに様々な商品が届き、私たちは欲しい物を簡単に手に入れることができる。企業によっては、流通の合理化を図ってコストを下げ安く販売しようとしているところもあることがわかった。</p>		